学術ポータル担当者研修レポート

平成 18 年 10 月 18 日

富山大学附属図書館

受講者番号 1　端場純子

受講者番号 2　松島珠喜

(1) 発表資料の状況設定

医学部教授会の前に時間をもらい，機関リポジトリの概要を説明する。先立って 5 月にリポジトリについて教員対象のアンケートを実施しており，その後初の説明機会となる。アンケートではリポジトリについての認知度がほぼないことが判明したが，賛意はかなり(8 割程度)あった。医学部はなかでも感触が良かったため，今回の説明対象とした。

機関リポジトリとは何かということから説明し，今年度の試験公開につなげたい。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言，及び研修発表との改訂部分

a. 発表内容抄録

5 月にアンケートを実施した，「学術成果リポジトリ」を正式に大学の事業として行うことになった。「学術成果リポジトリ」は学内で生産された学術成果物を，大学として世界に向けて発信していくものであり，これにより論文の視認性が高まること，大学としての知名度が向上することが期待される。著作権についても，多くの出版社が機関リポジトリへの登録を認めている。条件などの確認は図書館で行うので依頼するのはデータの提供のみである。コンテンツは雑誌論文以外も受け付ける予定である。今後段階的に収集を行っていき，今年度中の試験公開を目指しているのでご協力をお願いしたい。

b. 講師からの助言

・オープンアクセスを選択できる医学雑誌が結構あるので、著者が選択した場合，機関リポジトリには、著者最終稿ではなく出版社版を載せることが可能な場合がある。

・NSF などの海外のファンディング、海外の共同研究の場合、オープンアクセスを義務化されているケースがあるので、そういうものは是非機関リポジトリに登録して欲しいと、医学部の先生方に対して必ずいうことが望ましい。

・機関リポジトリへの登録を認めている出版社について，「多くの」という言い方ではなく，具体的に数字を出したほうがよい。

c. 研修発表との改訂部分

・発表資料 6 枚目，著作権の説明で「多くの出版社」を「90%以上の雑誌」に変更

・発表資料 7 枚目，データ提供依頼の「著者最終稿」を「出版社版または著者最終稿」に変更

・オープンアクセスが義務付けられている場合はぜひ論文を提供してもらえるよう口頭で付け加えた

・発表資料 9 枚目，最後に「問い合わせ先」を追加

(3) リハプレゼンの概要

日時：平成 18 年 10 月 4 日(水) 16 時 00 分～16 時 45 分

場所：富山大学附属図書館中央図書館第二会議室

発表者：端場，松島

発表対象：附属図書館職員

参加人数：10 名

(4) リハプレゼンへの反響

a. 内容についての意見・感想

・機関リポジトリへの登録を認めている雑誌の中からインパクトファクターの高いものなどをいくつかリストアップすると効果があるのではないか

・コンテンツの収集については，すでに機関リポジトリを構築している近隣大学の状況等を示せないか

・「メタデータ」など専門的な用語はなるべく使わないようにし，質問された場合は簡単に説明できるようにしておいたほうがよい

b. 機関リポジトリの運用についての質問

・個人の HP にすでに公開済みの場合でも登録の必要があるか

・手元にあるものが著者最終稿かどうか不明な場合は

・データの提供はファイルではなく紙でも良いか

・業績集(論文のリスト)でも良いか

・共著者がいる場合の著作権の確認は

・過去分はどのくらいまで遡って収集するのか

(5) その他

実際の教授会ではもっと厳しい質問が予想されるので十分な受け答えができるだけの知識と方針を持って臨みたい。